《幼児教育》

園児が自ら遊びを展開するための援助と環境構成の工夫

～思いを受け止められ安心して活動できる関係づくりを通して～

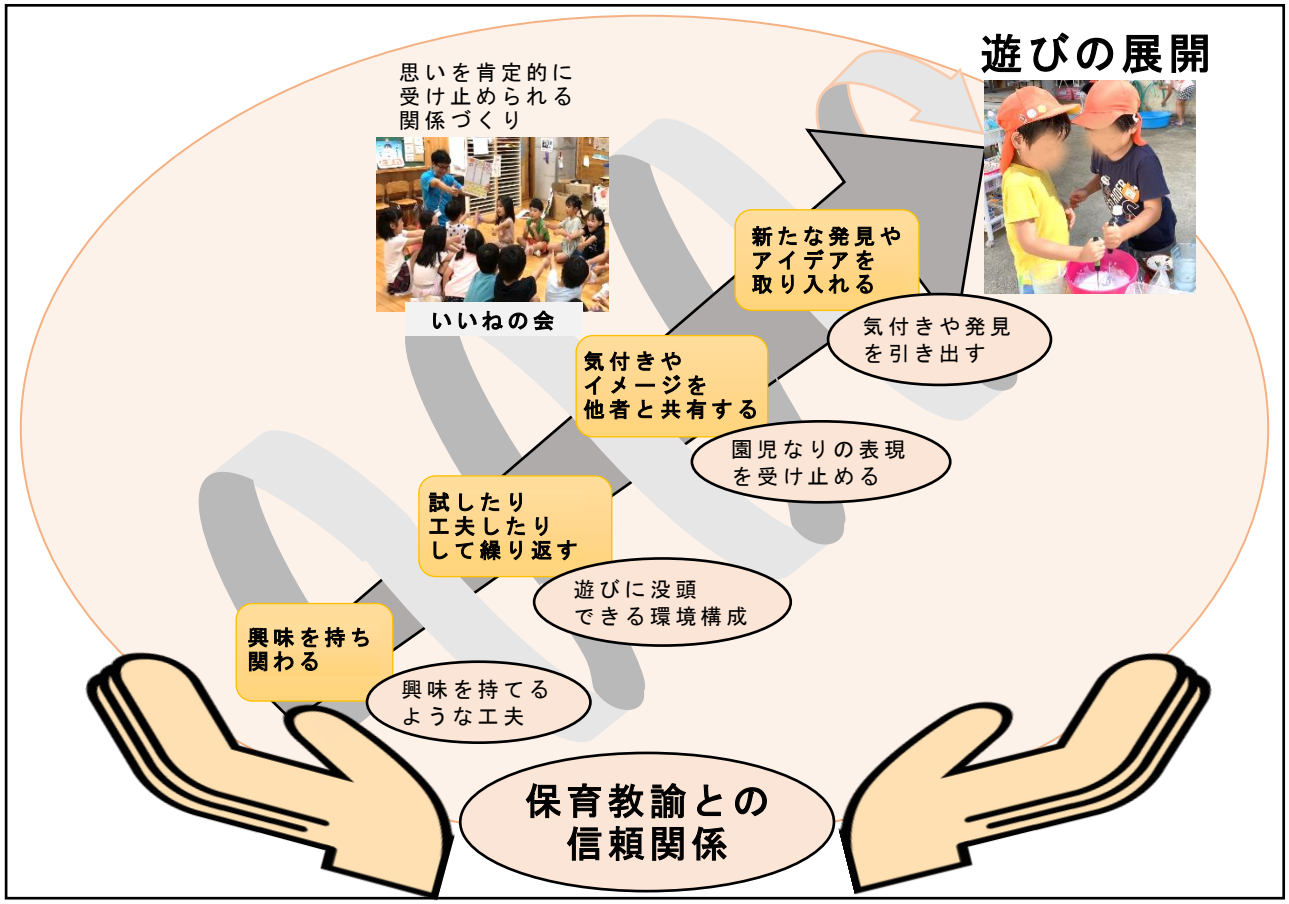
那覇市立天久みらいこども園保育教諭　富盛　倫明

〈研究の概要〉

保育教諭が園児に寄り添い，安心感を得られるようにすることで，園児は保育教諭との信頼関係を基盤にしながら，徐々に周囲の環境に関わり，興味のある遊びを見つけ，好きな遊びを展開できるようになっていく。そして，次第に友達との関わりを深め，友達との様々なやりとりから新たな発見をしたり，アイデアが生まれたりと刺激になって，園児自身が学び，自ら遊びを展開する姿につながると考える。園児が自ら遊びを展開できるようになるためには，保育教諭による意図的な援助と環境構成の工夫，周囲の友達との関わりが必要であると捉える。

本研究では，園児なりの表現が肯定的に受け止められる振り返り活動として「いいねの会」を行い，安心して活動できる関係づくりと，気付きや発見を共有できる機会づくりに努めた。実践を通して，園児が遊びを展開する過程に応じた援助と，園児自ら遊びを展開していくための園庭環境の再構成や園児の興味を引き出す掲示物等を工夫することにより，園児が安心して遊びを展開する姿につながったと考える。

〈研究のイメージ〉



目次

Ⅰ　研究テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　研究目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅲ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

Ⅳ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
　１　園児の遊びがどのように展開していくか
　　(1) 園児が自ら遊びを展開するための保育教諭等の役割
　　(2) 園児が自ら遊びを展開するための援助とは
　　(3) 園児が遊びを展開するためにふさわしい環境について
　２　思いを受け止められ安心して活動できる関係づくり

Ⅴ　保育実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　１　保育計画
　　(1) 実態把握
　　(2) 保育計画
　２　実践事例
　　(1) 園庭環境の再構成による遊びの変容
　　(2) 事例１　安心して活動できる関係づくりの工夫　～「いいねの会」を通して～
　　(3) 事例２　遊びを展開するための援助の工夫　～虫捕りに興味を持ったＡ児～
　　【Ａ児の変容と考察】
　　(4) 事例３　気付きや発見を共有するための援助　～色水遊びがしたいＢ児～
　　【Ｂ児の変容と考察】
　３　実践を通した園児の変容

Ⅵ　成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　１　成果
　２　課題

《主な参考文献》

《幼児教育》

園児が自ら遊びを展開するための援助と環境構成の工夫
～思いを受け止められ安心して活動できる関係づくりを通して～

那覇市立天久みらいこども園保育教諭　富盛　倫明

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

幼保連携型認定こども園教育・保育要領第１章総則第１節－１において，「保育教諭等は，園児との信頼関係を十分に築き，園児が自ら安心して身近な環境に主体的に関わり，（中略）その活動が豊かに展開されるよう環境を整え，園児と共によりよい教育及び保育の環境を創造するように努めるものとする。」と記されている。これは，保育教諭等が主導する一方的な教育・保育ではなく，園児自ら意欲をもって周囲に働きかけ，試行錯誤を繰り返しながら様々な活動を展開し，充実感や満足感を味わい，園児自らの発達に必要な経験を積み重ねていくことであり，そのための援助と環境構成の工夫が保育教諭等に求められていると捉えられる。

保育教諭が園児に寄り添い，安心感を得られるようにすることで，園児は保育教諭との信頼関係を基盤にしながら，徐々に周囲の環境に関わり，興味のある遊びを見つけ，好きな遊びを展開できるようになっていく。そして，次第に友達との関わりを深め，園児なりの表現による伝え合いや気付きによって遊びの幅を広げていくことができると捉える。その中で，友達との様々なやりとりから新たな気付きや発見をしたり，アイデアが生まれたりと刺激になって，園児自身が学び，自ら遊びを展開する姿につながると考える。園児が自ら遊びを展開できるようになるためには，保育教諭による意図的な援助と環境構成の工夫，周囲の友達との関わりが必要であると捉える。

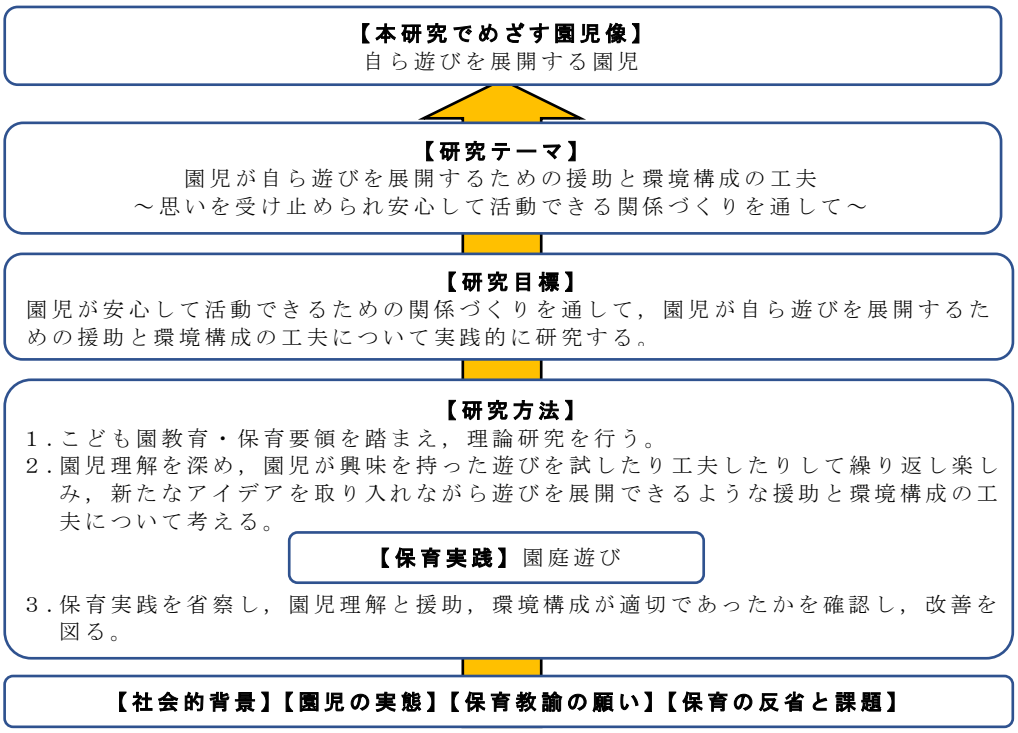
しかし，学期初期のクラスでは，園児が新たな環境に不安や緊張を感じ，新しい遊びに興味・関心があっても，知っている遊びを繰り返すことで安心感を得たり，友達との関わりが浅いために，新たな発見やアイデアが得られないまま遊びを継続したりして，遊びが展開せず充実感や満足感を得にくいまま過ごしている，という実態が多く見られている。私自身の保育を振り返ると，園児が安心感を得て遊びや活動ができるような配慮ができていたか，園児同士が気付きやイメージを共有するための取り組みができていたか，また，園児が自ら遊びを展開するための援助と環境構成が十分でないために，遊びを展開させて楽しむ経験を積み重ねることができていなかったのではないかと感じることがある。

それを踏まえ，園児が安心感を得て活動できるような関係づくりを通して，実態や経験によって違いのある園児が自ら遊びを展開するための援助と環境構成の工夫を研究していきたいと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

園児が安心して活動できるための関係づくりを通して，園児が自ら遊びを展開するための援助と環境構成の工夫について実践的に研究する。

Ⅲ　研究構想図



Ⅳ　研究内容

1　園児の遊びがどのように展開していくか

(1) 園児が自ら遊びを展開するための保育教諭等の役割

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（以下教育・保育要領解説）領域「人間関係」内容（１）において，「園児は，そこで自分を温かく受け入れてくれる保育教諭等との信頼関係を基盤に自分の居場所を確保し，安心感をもってやりたいことに取り組むようになる。」と記されている。これは，新しい環境に対して不安を感じ，保育教諭等の側で遊ぶことで安心していた園児が，次第に安心感を得て自ら好きな遊びを見つけていく過程の中で，保育教諭との信頼関係を心のよりどころとしていると捉えられる。保育教諭等には，新しい遊びに興味を持って関わる園児や，実現したいことが上手くいかずに葛藤する園児に寄り添い，園児が自らやってみたいという意欲をもてるようにしたり，やってみたらできたという充実感や満足感を十分に味わったりできるようにすることが求められている。そのために，保育教諭が，人的環境として園児の気持ちを受け止め，気付きに共感したり共に喜んだりして園児の心に寄り添い，遊具や道具を精選し，遊びに必要な空間や時間を確保して，遊びに没頭できるよう物的環境を整えることが，園児が自ら遊びを展開する姿につながっていくと考える。

(2) 園児が自ら遊びを展開するための援助とは

教育・保育要領解説領域「環境」内容（２）において，「園児が周囲にある様々な物に触発されて遊びを生み出し，多様な見立てを楽しむと，その遊びに興味を持った仲間が集まり，新しいアイデアが付加され，その物の性質や仕組みについて新たな一面を発見する。その発見を生かして更に遊びが広がり，深まるといった過程を繰り返す。」とある。このことから，保育教諭との信頼関係を基盤にし，園児が興味を持った物に

自分から関わる中で，試したり工夫したりして繰り返し楽しみ，その中で得た気付きや発見を園児なりの表現で保育教諭等や友達と共有するといった，相互に響き合う環境の中で，遊びは展開すると考えられる。

河邉（2005）は「『おもしろいな』『次はどうなるのかな』という思いが次の行動の目当てを生む。子どもの内からの欲求によって行動が起きる状態，つまり自己課題をもって遊びに取り組む状態のとき，子どもは実に『主体的』に行動する。」と記している。本研究では，河邉の「自己課題をもって遊びに取り組む状態」を，予想される園児の気持ち・言葉として，「『主体的』に行動する姿」を，自ら遊びを展開する姿として捉える。以上を踏まえ，園児が遊びを展開する過程を４つに分け，それぞれの過程に応じた保育教諭による援助と望ましい環境構成を表１にまとめた。

表１　遊びを展開する過程と保育教諭による援助，望ましい環境構成（筆者作成）

遊びを展開する過程	興味を持ち関わる	試したり工夫したりして繰り返す	気付きやイメージを他者と共有する	新たな発見やアイデアを取り入れる
予想される園児の ○気持ち ☆言　葉	○やってみたいな ○わからないけど見ておこう ☆やりたい！ ☆おもしろい ☆どうやるの？	○こうしてみよう ○うまくいったからまたやりたい ☆できたよ！ ☆あれ?どうして? ☆またやりたい！	○誰かに伝えたい ○自分はこう思うな ☆それいいね！ ☆どうやったの？ ☆こんな遊び方もあるんだね!	○友達はこうしたのか ○自分だったらどうするだろう ☆この方法でやろう！ ☆いいこと考えた！ ☆こうなるといいな
保育教諭の援助	･遊びへ誘う ･一緒に遊び楽しさを共有する ･葛藤する園児に寄り添い，必要に応じ援助する	･安心して遊べるよう見守る ･喜びや気付きに共感する ･繰り返し楽しめるよう気付きを促す	･友達の様子を気付かせる ･園児なりの表現を受け止める ･周囲が理解できるよう代弁する	･気付きや発見を引き出す ･遊びをより楽しめるよう提案する ･園児同士の関わりをつなぐ
望ましい環境構成	・園児の発達の時期に即した遊具や教材が用意されている ・実態や経験の違う園児それぞれにとって新しい遊びとの出会いがある ・園児の興味や欲求に即したその時期ならではの遊びが展開されている ・遊びに没頭するために十分な環境（材料・道具・時間・空間・動線）が確保されている		・周囲の環境や友達との関わりから多様な発見が得られる ・他児に自分なりの考えを伝え、それを受け止められたり，気付きを共有したりするために意図された振り返りの場がある ・新たな気付きやアイデアを取り入れ，遊びを継続することができる ・遊びの様子や園児の言葉，新たな気付き等を掲示する	
	信頼できる保育教諭等の見守り			

(3) 園児が遊びを展開するためにふさわしい環境について

教育・保育要領解説領域「健康」内容（３）において，戸外での遊びは，解放感を味わいながら思い切り活動することができ，園児の興味や関心を喚起する自然環境に触れることで，新しい発見や出来事と出会うことも多く，園児が主体的に遊びを展開するためにふさわしい環境のひとつであるということが記されている。また，本園５歳児の年間指導計画Ⅱ期（５月下旬～８月）において，水を使った遊び（砂場遊び・色水遊び・石けん遊び等）が園庭遊びの中心になり，園児同士が同じ場で遊びを展開し，気付きや発見が多く得られると予想される。そこで，本研究では，園児にとって身近な戸外環境である園庭での遊びを通して,園児が自ら遊びを展開する姿を目指し，研究を進めていく。

２　思いを受け止められ安心して活動できる関係づくり

教育・保育要領解説領域「言葉」内容（１）において，「言葉を交わすことができる基盤が成立していることにより，園児は親しみを感じている保育教諭等や友達の話や言葉に興味や関心をもち，自分から聞くようになり，安心して自分の思いや意志を積極的に言葉などで表現しようとするのである。」と記されている。言葉やジェスチャーなどの園児なりの表現が保育教諭等や友達へ肯定的に受け止められることで安心感を得ることができ，その安心感を基盤にし，相手に分かるように園児なりの表現で伝えようとすることで，自分の考えがまとまったり，深まったりするようになると捉える。そして，園児なりに考えた気付きやアイデアを遊びに取り入れていくことによって，結果として遊びを展開することになると考える。本研究では，園児自身が思いを受け止められた喜びを味わうことで，友達の思いも肯定的に受け止められるような関係づくりを目指して実践していく。

Ⅴ　保育実践

１　保育計画

(1) 実態把握

本研究の対象クラスは，年長５歳児 24 名のクラスである。４月末の実態として園児に好きな先生について聞き取りをしたところ，新担任と答えた園児と，担任以外（前年度担任，支援ヘルパー等）と答えた園児で半数に分かれた。これは，保育教諭との信頼関係構築半ばであると捉えられるため，担任以外と回答した園児が安心して過ごせるよう個別に配慮し，信頼関係構築に努めていくようにした。６月下旬，遊びを展開する過程におけるクラスの実態を担任間で見取り，分けた（図１）。日々の生活の中で園児の興味が移り変わり，遊びを展開する過程が行きつ戻りつすることを考慮し，それぞれの過程における援助と環境構成を工夫し，実践した。

興味を持ち関わる	試したり工夫したりして繰り返す	気付きやイメージを他者と共有する	新たな発見やアイデアを取り入れる
５名	８名	７名	４名

図１　６月下旬時点の園児の実態

(2) 保育計画

実践		◇ねらい　・内容
６月５週目 ～ ７月２週目	・園庭で水を使った遊びを思い切り楽しむ（砂場・石けん・色水） ・園庭の草花や虫に触れ，興味を持つ ・「いいねの会」に参加し，楽しかったことや発見を友達に紹介する	◇興味のある遊びを繰り返し楽しんだり，自分なりの方法を取り入れたりして遊ぶ楽しさを味わう。 ・いろいろな道具や素材を使いながら，興味のある遊びを自分なりに楽しんだり，友達と一緒に遊んだりする。 ◇「いいねの会」に参加し，自分なりの表現で話したり，友達の話を聞いたりしながら互いに遊びを共有し，今後の遊びに期待感を持つ。 ・「いいねの会」で自分の発見したことや思いを伝え，友達に認めてもらう嬉しさを感じる。 ・友達の話を聞いて刺激を受け，新たな気付きや発見を自分の遊びに取り入れる。
７月３週目（本時） ７月３週目（本時翌日）		◇興味のある遊びを**試したり工夫したり**，**新たな気付きや発見を取り入れたりして**遊ぶ楽しさを味わう。 ・自分なりの**気付きを遊びの中で試したり**，友達との関わりから得られた**新たな発見を取り入れたりして**，楽しく遊びを進める。 ◇「いいねの会」に参加し，自分なりの表現で話したり，友達の話を聞いたりしながら互いに遊びを共有し，今後の遊びに期待感を持つ。 ・「いいねの会」で自分の発見したことや思いを伝え，友達に認めてもらう嬉しさを感じる。 ・友達の話を聞いて刺激を受け，新たな気付きや発見を自分の遊びに取り入れる。

２　実践事例

(1) 園庭環境の再構成による遊びの変容

園児の興味や関心を把握し，遊びの場の再構成等を週案会議等で話し合いながら園庭環境を整えていった。色水遊びと石けん遊びは，遊びに興味を持っている園児が楽しんでいる様子であったが，離れた場所にあるため，互いの遊びの様子が見えない環境であった。図２に示すように，環境の再構成として，遊びの場を近づけ，それぞれの遊びの様子を目で見たり，友達同士の声を聞いたりと刺激を受けることができるようにした。すると,「いいこと考えた！」「〇〇してみよう！」等,試したり工夫したりする姿が見られるようになった。そして，色水と石けんを混ぜると色が変わることを発見したり，色水をジュースに，石けんの泡をクリームに見立てたケーキ作りから，ごっこ遊びへと展開したりするなど，遊びの変容が見られた。

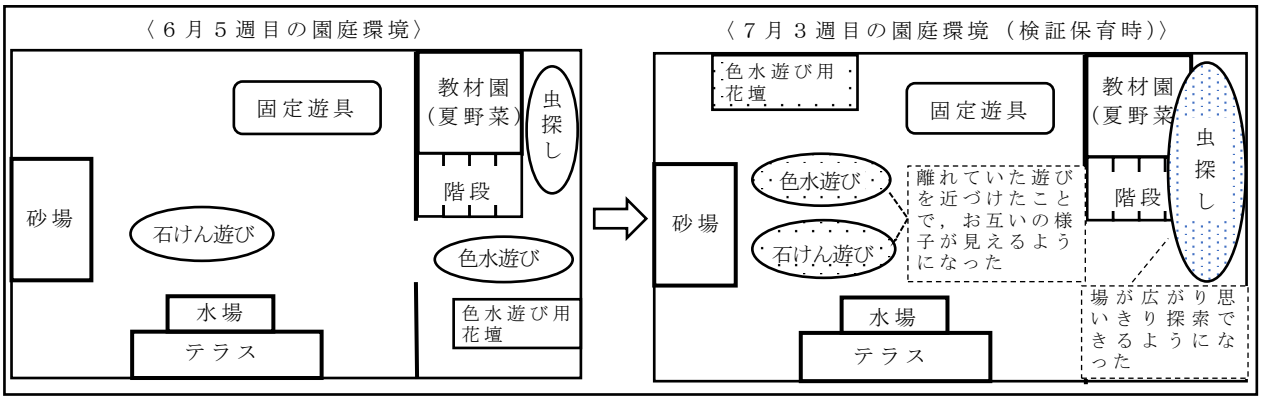


図２　園庭遊びの場の工夫

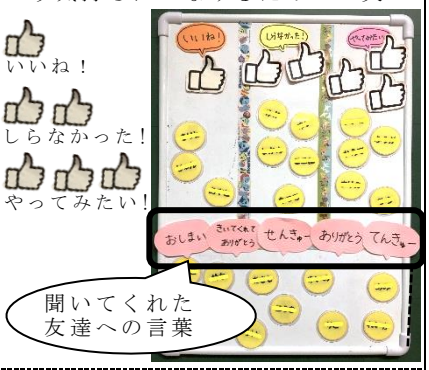
(2) 事例１　安心して活動できる関係づくりの工夫　～「いいねの会」を通して～

本研究では，遊びの中での発見を保育教諭等や友達に発表したいという園児の思いを受け，振り返り活動「いいねの会」を行うこととした。「いいね」は，園児からよく聞かれ，相手の思いを受け止める肯定的な言葉である。そのため，発表後の友達に対してジェスチャー付きで「いいね」と伝えることで，発表した園児なりの表現が肯定的に受け止められる喜びを味わうことができると考えた。

５月中旬,「いいねの会」について聞き取りした園児 22 名の内 20 名が会を楽しいと答えており,「発表ができる・聞けるから」「いいねと言える・言われるから」「友達の発表を聞いて自分もやりたいと思うから」という意見があった。これは,「いいね」という短く分かりやすい肯定的な言い回しによって，保育教諭や友達に思いを受け止められる喜びや安心感を得ていることの表れだと考えられる。６月５週目には，教育時間終盤の帰りの会で行っていた「いいねの会」を，水分補給を利用した遊びの休憩時間に行うようにし，新たな気付きや発見を保育教諭や友達にすぐに伝えられる喜びを味わえるようにした。そうしたことで，休憩後の遊びで新たなアイデアを遊びに取り入れる園児がいたり，友達がしていた遊びに刺激を受けて真似をしてみたりと，遊びの共有によって得られた気付きや発見をすぐに取り入れる姿が見られた。

また,「いいねの会」では発言できなくても，新たな気付きや発見をし，直接保育教諭に伝えようとする園児もいる。そこで「いいねの会」での気付きやそれ以外での発見を記入して貼ったり，遊びの様子の写真を貼ったりして，園児同士で見ることで気

付きを共有できるよう「園庭大発見地図」を掲示し，発言の少ない園児の気付きを引き出せるようにした。写真を見ることで「こんな風にしていたんだ」等の発言が聞かれ，より具体的に遊びのイメージを共有しやすくなったと考える。

①いいねの会	②園庭大発見地図	③発表してくれていいね
園児なりの表現を肯定的に受け止めてもらうための振り返りの場	気付きや発見を共有し，次の遊びへの期待感を高めるための工夫	先生や友達に話したい，聞きたいという気持ちにつなげるための工夫
		
園児の変容		
【安心して活動する姿】 「いいねの会で発表したい」と遊びの中で保育教諭に伝える子が増えた。 【新しいことを取り入れて遊ぶ姿】 遊びの合間に行うことで友達の新たな発見や気付きを知り，自分の遊びに取り入れる園児が増えた。 園児：「〇〇さんがやっていたみたいにしたい」	【遊びやイメージを共有する姿】 園児なりの表現や，保育教諭の代弁した言葉だけではうまくイメージできない園児でも，文字を読んだり，遊びの写真を見たりすることでイメージしやすくなった。 園児：「こんな風にしていたんだ」 「(大発見地図を指さし)ここにある花でできるよ」 「これ私が見つけたんだよ」	【話す・聞くことに意欲的な姿】 「いいねって言われたよ」，「次はトリプルいいねにする」など，意欲的に話したり，肯定的に受け止めたりする園児が増えた。 【友達のことを思う姿】 一緒に遊んだが，発表せずに会に参加していた友達のことを伝えにくる園児がいた。 園児：「〇〇さんもやったんだよ」 「次は(〇〇さんも)一緒に発表しようね！」

(3) 事例２　遊びを展開するための援助の工夫　～虫捕りに興味を持ったＡ児～

これまでのＡ児の育ち	「興味を持ち関わる」姿のＡ児。少しずつだが，保育教諭に自分の思いを伝えたり，友達と関わって遊んだりする姿が見られるようになっていた。６月下旬から７月上旬にかけ，友達に誘われて砂場遊びを楽しむ姿が見られ，「いいねの会」でも発表する姿が見られていた。
本時の姿	これまでやったことのない虫捕りをする姿が見られた。

〇園児の姿	◎保育教諭の援助◆環境構成
 〇虫捕りに興味を持っているが，網が欲しいと言い出せず，友達と手をつないで歩き回る。	「虫捕りがしたいの？網の場所わかる？」 ◎園児の思いを<u>引き出す</u>。 ◆取り出しやすい場所に網を置いておく。 ◎網を渡すことで安心して虫捕りを楽しめるようにする。
興味を持ち関わる 〇網を受け取ると，喜んで虫探しをして，チョウを捕まえることができた。 「お姉ちゃんがね，オオゴマダラを手で捕まえたんだよ！足のすぐ横に止まっていたんだよ！」	「お姉ちゃんみたいに捕まえられてすごいね！」 ◎園児の思いを受け止め，チョウを捕まえられた<u>喜びを共有する</u>。
試したり工夫したりして繰り返す 〇チョウを捕まえたことが自信になったのか，虫探しを継続する。	◆園児が試したり工夫したりして繰り返せるよう遊びを見守る。

気付きやイメージを他者と共有する

○保育教諭にどうやってチョウを捕まえたのかやって見せる。

「止まって動かない所を捕まえたんだよ」

○保育教諭とセミを見つけ，一緒に網で捕まえる。

「私，触るの怖い」

「そうなんだね，動かないから捕まえられたんだね，よく考えたね！」

◎園児なりの表現を**受け止める**。

「あ！Ａさん，セミがいるよ！」

◎網に手を添え，園児がセミをうまく**捕まえられるよう援助する**。

「触るの怖いの！？先生が捕ってもいい？」

「セミを優しくおさえてあげて，網からそっと取るんだよ」

◎セミを虫かごに入れたいが，怖がる**園児の気持ちに寄り添い**，捕まえ方を教えながら代わりに捕まえる。

いいねの会

他児のつぶやき

「わあ，セミだ!」
「ふたりクマゼミ!」
「オスとメス？」

「セミと，もう逃がしちゃったけどオオゴマダラを捕まえました！」

「低いところにいて止まって動かないセミとか，ランタナに止まっているチョウも捕まえた」

他児のつぶやき

「飛んでるセミ捕まえたらさ，拍手だよ！」
「わたしも捕まえたいな！」

興味を持ってＡ児の発表を聞く姿が見られる。

「今日は何を捕まえましたか？」

「今日初めてセミもチョウも捕まえたの？」
「どうやって捕まえたの？」

◎園児なりの表現を**引き出す**。

「そっと近づいて網で捕まえたんだよね」

◎初めて虫捕りをしたＡ児の様子を他児に伝え，まだ虫捕りをしたことのない園児の**興味を引き出す。**

◆園児なりの表現を受け止め，安心して思いを伝えられる雰囲気をつくる。

検証保育翌日

「おきみゅー(県立博物館)でオオゴマダラを見たから」
「(今までと)違う遊びもしてみたかったから」

○前日とは違う友達とセミ捕りをする。３匹捕まえたがＡ児はセミを捕まえることができなかった。

「どうして虫捕りをしようと思ったの？」

◎虫捕りをしたいと思ったＡ児の思いや背景を受け止め，**今後の遊びにつなげられるようにする**。

◆新たな関係を築いた園児同士を見守り，必要に応じた援助ができるようにする。

いいねの会

○一緒にセミ捕りをした３人で３匹のセミを捕まえたことを発表する。

○誰がセミを逃がすか相談する。

新たな発見やアイデアを取り入れる

「３人のセミにするのはどう？(会が)終わったら１匹ずつ逃がそうよ！」

○３人の意見が合い，会終了後セミを逃がすことを決める。

「捕まえたセミを観察した後は，教室でお世話するのかな？」

◎捕まえたセミを今後どうするか園児の気付きを促し，**命の大切さを考えられるよう言葉かけする**。

「いい考えだね！セミさんもお家に帰れて喜ぶと思うよ！」

◎Ａ児なりの考えが深まり新たなアイデアを取り入れて遊べるよう**思いを肯定して受け止める**。

【Ａ児の変容と考察】

今まで虫捕りをしてこなかったＡ児であるが，「違う遊びもしてみたかった」ということから，自分自身の経験や「いいねの会」で他児が発表していたことを聞き，虫捕りに興味を持っていたと考えられる。何度も繰り返してＡ児なりの方法でチョウを捕まえたり，保育教諭の援助で初めてセミを捕まえたりすることができ，経験して得られた発見や気付きを「いいねの会」で発表することで，友達と遊びを共有することができた。Ａ児の発表中，興味を持って反応する園児が数名いたことから，他児にも興味が広がっていると捉えられる。Ａ児は翌日もセミ捕りを楽しみ，セミの観察にも興味を持ったり，発表の最中に「３人のセミにしよう」と提案し，セミ

を捕まえられなくても楽しめる新たな方法を取り入れたりしている姿から，Ａ児なりに遊びを展開していると捉えられる。

(4) 事例３　気付きや発見を共有するための援助　～色水遊びがしたいＢ児～

これまでのＢ児の育ち	「試したり工夫したりして繰り返す」姿のＢ児。色水や砂場遊びを好み，友達と関わるよりも，保育教諭等に思いを受け止められることで安心して遊ぶ姿が多く見られる。自分の**やりたい遊びを始めるまで時間を要することがある**ため，やりたいイメージを引き出しながら遊びを始められるようにしている。「いいねの会」で発表することに意欲的なため，言葉を引き出しながら，発表を楽しめるように援助している。
本時の姿	前日，一緒に色水遊びをした友達が別の遊びに行ってしまった。

○園児の姿	◎保育教諭の援助◆環境構成
○前日，一緒に遊んだ友達が，砂場遊びに行ってしまい，砂場の周囲を歩き回る姿が見られる。	「今日二人で遊ぶの？どうする？色水する？砂場？石けんする？Ｂさん，何する？」 ◎Ｂ児の気持ちを**引き出す**。
「色水(したい)，ペットボトルがない」	「ペットボトルどこにあるかわかる？」 ◆ペットボトルを一緒に準備し，遊びの環境を整える。
○色水遊びを始める。何度も繰り返し遊んでいるため，自分のイメージ通りの色水を作ることができた。次は，石けんクリームを作っている。	「どんな泡を作りたいの？固い泡？柔らかい泡？消えない泡？」 ◎Ｂ児の作りたい石けんクリームの**イメージを引き出し，具体的な言葉で伝える**。
○保育教諭の問いかけにうなずく。	「混ぜてみるのはどう？」 ◎Ｂ児の思い通りの石けんクリームが作れるよう**提案する**。
試したり工夫したりして繰り返す ○保育教諭と一緒に石けんを混ぜ，石けんクリームを作る。	「先生もやってもいい？」 「Ｂさん，混ぜる時はどの手が使いやすい？」 「先生は反対側から(混ぜるのを)やろう」 ◎一緒に遊び**楽しさを共有する**。
 「もうちょっと」	「(泡が) もう固いんじゃない？」 「ほら，(泡の) 形が残るよ？」 「もうちょっと混ぜる？どれくらいか教えて」 ◎Ｂ児のイメージを引き出し，できあがりの**イメージを共有する**。
○保育教諭の問いかけにうなずく。 「色水に入れる？」 「色水の道具」	「この前，スポンジに乗せていた泡が消えちゃったよね。消えない泡作りたいね」 「いい感じのクリームになってきてるよ？どう？」 ◆思いを引き出しながら遊びを進めることで**安心して遊びを楽しめるようにする**。 「入れてみる？どうやって入れる？」 「さっきＢさんがやってた所に道具ある？」 「やってみよう！」 ◎提案しながらＢ児の思いを引き出し，**イメージ通りに遊びが進むようにする**。
 ○使っていた道具(じょうご，茶こし)を持ってきて，こぼさないようにペットボトルに石けんクリームを流し込む。	◆試したり工夫したりして遊びに没頭できるように**見守る**。
 ○じょうごをペットボトルの飲み口にセットし，側に置いてあった計量カップで石けんクリームを流し込む。 ○石けんクリームがなかなか出てこない。	「うわー，泡が固いからなかなか…，あ！出てきたよ」 「いいんじゃない？」 「なんか，ケーキ屋さんみたいな…」 ◎イメージが広がるよう，**具体的な言葉を引き出す**。

「アイスクリームだよ！上に乗せているみたい！」	「アイスクリームか！」 「おー，いい感じいい感じ」 「なんかソフトクリームって感じがする」 「完成？これの名前は何かな？」
「もういっぱいだ」 「ソーダジュース」 ○ペットボトルのフタを閉め，完成したジュースを振って，石けんクリームと色水を混ぜ合わせる。	「混ぜるんだ！混ぜるんだね」 「そしたらどうなる？」 「本当にあわあわになってるね！炭酸のジュースみたいだよ」 「上に泡がくるからほんとのソーダジュースだね」
○混ぜたことで石けんクリームが色水に溶け，ペットボトルの上の方に隙間ができる。	◎混ぜた結果どうなったかを，具体的な言葉で代弁することでＢ児の**イメージを言語化する**。
「もうちょっと(クリームを)入れてみる」	「どこいったんだろう？ソフトクリーム」 「なんでこの時(クリームを流し込んでいる時)は上にのるのに，振ったら無くなるのかな？」
○クリームを入れて，ペットボトルを振って，またクリームを入れて，何度も繰り返す。次第に，青っぽい色水から，水色に変化していることに気付く。	◎Ｂ児なりに試したり工夫したりして，**新たな発見が得られるよう気付きを促す**。
いいねの会	
気付きやイメージを他者と共有する ○作った色水のペットボトルを大事に抱えて参加している。 	「クリームを入れたら色が変わったの？」 ◎言葉を引き出したり，質問したりしながら，**Ｂ児なりの表現を引き出す**。
「振ったら色が変わった！」	「クリームを入れるだけじゃなくて，振ったら色が変わるんだね！先生知らなかった！」 ◎Ｂ児なりの表現を他児にも分かるように代弁し，友達に**思いが伝わった経験を積み重ねられるようにする**。 「Ｃさんも同じ発見したんだよね？」 ◎同じ遊びを近くで楽しんでいたＣ児を紹介し**Ｃ児とＢ児の発見をつなぐ**。
検証保育翌日	
新たな発見やアイデアを取り入れる ○前日と異なり，色水を入れずに，石けんクリームだけをペットボトルに入れる。	
Ｂ児「(ペットボトルを持ち上げ) 軽い！」	「本当だ！Ｃさんが作った色水と比べてみよう！」 ◎側にいたＣ児が作った色水と重さを比べられるよう**園児同士をつなぐ**。
Ｂ児「(Ｃ児の色水は容器が)小さいのに重いよ！」 Ｃ児「(クリームが)いっぱい入ってるのに軽いね！」	「すごい！大発見だね！」 ◎友達同士で試したり工夫したりする姿を**見守り**，園児なりの**発見を一緒に喜ぶ**。
いいねの会	
Ｂ児「あわだけ入れたら軽くなった」	(全体へ向けて) 「あわだけ入っているのとお水が入っているの，どっちが重いか分かる？」
Ｃ児「こっち(Ｂ児)の方が軽い！」	(Ｃ児へ向けて)「どうして分かるの？」
Ｃ児「だってねえ，Ｂさんと比べた」	「Ｃさんの(色水)も持ってきてくれる？」 ◎同じ発見をしたが，Ｂ児の発表を聞いていたＣ児も**一緒に発表できるように誘いかける**。

【Ｂ児の変容と考察】

Ｂ児が遊び始めるまでに時間が必要であることを理解し，保育教諭が必要な道具を一緒に探したり，一緒に遊んで園児なりのイメージや表現を引き出したりしたことで，安心して遊ぶことができたと考える。Ｂ児が安心してやりたい遊びを何度も繰り返したことで，石けんクリームと混ぜると色水が変化することに気付いたと捉えられる。また，保育教諭が，それぞれ遊んでいた園児同士を「いいねの会」でつな

ぐ援助をしたことで，翌日の遊びで石けんクリームと色水の重さの違いに気付いたと考えられる。園児同士の遊びをつなぐことで新たな気付きや発見が得られ，遊びを展開することにもつながると捉える。

３　実践を通した園児の変容

検証保育前，新たな発見やアイデアを取り入れて遊びを展開する園児が４名だったのに対し，検証保育後の見取りでは９名に増加した（図３）。遊びの積み重ねと，「いいねの会」での共有により，園児なりの新たな発見が増え，遊びに取り入れるようになっているからだと考えられる。Ａ児（事例２）においては，興味を持ち関わる過程から，新たな発見やアイデアを取り入れ遊びを展開する過程に，Ｂ児（事例３）においては，試したり工夫したりして繰り返す過程から，新たな発見やアイデアを取り入れ遊びを展開する過程へと，それぞれ変容が見られた。遊びを展開するためにはどの過程も大切であり，園児が興味を持った遊びを展開するために，それぞれの過程に応じた援助と環境構成をしていくことが重要であると捉える。

遊びを展開する過程	興味を持ち関わる	試したり工夫したりして繰り返す	気付きやイメージを他者と共有する	新たな発見やアイデアを取り入れる
検証保育前	５名（Ａ児）	８名（Ｂ児）	７名	４名
検証保育後	２名	６名	７名	９名（Ａ・Ｂ児）

図３　検証保育前後の園児の変容

Ⅵ　成果と課題

１　成果

(1)「いいねの会」をすることで，園児なりの表現が保育教諭や友達に肯定的に受け止められる経験を積み重ねることができ，園児が安心感を得ることで様々な遊びに興味を持ち，自ら遊びを展開するための基盤作りができた。

(2) 園児が遊びを展開する過程を保育教諭が意識し，その過程に応じた援助をしていくことでより深い園児理解につながった。そして，園児理解を基に，園児一人一人の実態や経験の違いに応じた援助と環境構成の工夫を考え実践したことで，園児が自ら遊びを展開する姿へとつなげることができた。

２　課題

園生活の中で，園児の興味は様々な遊びに向けられて広がっていき，遊びを展開する過程が行きつ戻りつする。そのことを考慮し，保育教諭は園児の興味や遊びを展開する過程が移り変わる場面を的確に見極め，その姿に応じた援助と環境構成の工夫を継続していく必要がある。

《主な参考文献》

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』
内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2018
『遊びを中心とした保育　保育記録から読み解く「援助」と「展開」』　河邊貴子　萌文書林　2005
『幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開』　文部科学省　チャイルド本社　2019
『園児が心を寄せる環境の構成』　内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館　2022